

新たな「京都市動物園構想」の5つの柱と24の施策

1

生物多様性の保全に力強く貢献し 日本をリードする動物園

施策 1

環境エンリッチメント等の動物福祉に配慮した取組をより一層強化し、飼育動物の心理的な幸福を目指した飼育・繁殖に取組む。

施策 2

ラオスとの国際協力によりゾウの繁殖プロジェクトを推進するとともに、アジアゾウの繁殖拠点を目指す。また、ニシゴリラやグレビーシマウマなどの国際希少種は国際的な協力も得て飼育下繁殖を推進し国内の繁殖拠点として日本をリードする。

施策 3

国内希少種のツシヤママネコや京都府の絶滅危惧種であるイチモンジタナゴについて、飼育下繁殖を推進し、国内及び地域の野生動物の保全につながる取組みを強化する。

2

文化教育施設として日本国内の オンリーワンを目指す動物園

施策 4

生物多様性の啓発や地球温暖化対策の理解を深めることはもとより、SDGs（持続可能な開発目標）の課題など、世界の多様な自然環境問題の教育普及など、動物園に求められる教育のニーズが高まっていることを踏まえ、シンガポール動物園での取組みを参考に、動物園における環境教育の充実を図る。

施策 5

国際的協力の実践として、シドニー大学やエジンバラ大学などからの獣医学実習生の受け入れをはじめ、国内各地の大学から学芸員実習等の多様な実習生を積極的に受け入れ、国内外の教育の場としての動物園を目指す。

施策 6

動物園、京都府立植物園、京都水族館、青少年科学センターとの連携「きょうと☆いのちかがやく博物館」により多くの子どもたちが学びを享受できるようにさらに発展を目指す。

施策 7

京都市立芸術大学や文化芸術団体等とも連携を図り、文化を発信する場として動物園の機能を高める。

施策 8

京都大学と共催する国際エンリッチメント会議(ICEE)や世界博物館会議(ICOM)への主体的な参画をきっかけに、世界の舞台に飛躍する動物園を目指す。

3

比較認知科学や動物福祉に関する研究を 推進する世界水準の動物園

施策 9

「生き物・学び・研究センター」が国の科学研究費補助金の申請が可能な研究機関として指定されたことを機に、霊長類をはじめとした希少動物の保全や福祉の研究を更に推進し、研究成果を日本国内ひいては世界に向けて積極的に発信する。

施策 10

京都大学をはじめ他都市の動物園、博物館等の教育研究機関や京都市の庁内関係部署(教育委員会、環境管理課、地球温暖化対策推進室等)と連携し、多様な観点から研究を進める。

施策 11

国内の動物園でも唯一の取組である比較認知科学の研究は、類人猿からヒトに至る「こころの進化」を学ぶことができるものであり、その研究成果を来園者をはじめ、各種メディアを通じて国内外に積極的に発信する。

施策 12

遺伝的多様性を解析し、血統が偏らないようにするなどの保全に関する研究を、飼育下における繁殖計画や生息地での保全活動や教育普及事業に生かす。

施策 13

動物福祉に関する研究を飼育環境の改善や教育普及事業に反映する。

4

「近くて楽しい動物園」の更なる進化

施策 14

魅力ある展示となるよう、時代の潮流を踏まえ、中期的な飼育展示計画に基づいた展示方法を目指す。また、太陽光発電など自然エネルギーを活用し、環境に配慮した「エコ・Zoo」の取組を更に進める。

施策 15

障害者、小さな子ども連れの家族、高齢者等の特に配慮が必要な来園者が楽しめるよう、ユニバーサルデザインを推進する。

施策 16

動物園のガイドを行う「ガイドボランティア」等、市民ボランティアの活動範囲を拡大する。また、学生のまち京都の特長を活かし、京都外国語大学と連携し、多言語ガイドを担う学生のボランティアを積極的に活用し、市民とともに育む動物園を目指す。

施策 17

東山を借景とした花や緑が美しく映える自然環境を活かし、四季を身近に感じることのできる空間としても来園者に楽しんでもらえるよう園内の美化や植栽充実に努め、文化的重要景観地域内の施設として、岡崎文化ゾーンの先導的役割を果たす。

施策 18

市民や企業から御支援いただくサポーター制度を充実するなど、御支援のニーズを的確に捉え、持続可能な運営を目指す。

施策 19

動物福祉の向上の観点から課題の多い「サルワールド」(サル島及び類人猿舎)を再整備する。再整備に当たっては、周囲の動物舎との調和や、教育・研究機関としての機能拡充を考慮する。

施策 20

園内の動物舎に対して、動物福祉に配慮した改修や施設の長寿命化のための必要な修繕を実施し、計画的な維持・管理充実に図っていく。

5

多くの人が集い、多くの学びを 広げる動物園(誘客対策)

施策 21

京都市における文化・観光拠点の1つである岡崎公園に立地している地理的環境を活かし、岡崎地域の他施設(京都市美術館、琵琶湖疏水記念館等)、京都市の関係部署(観光MICE推進室等)と連携し、岡崎地域の活性化を図るとともに、来園者の増加に繋がる取組を進める。

施策 22

国際観光都市として、園内の動物説明板などの多言語化を図り、観光客・インバウンドによる海外からのお客様を積極的に取り込む。なお、多言語化については、アジア圏の訪日観光旅行者が多いことから、アジア圏の言語の翻訳に重点を置く。

施策 23

生物多様性や地球環境の保全などの環境教育に力を入れ、「環境都市・京都」のシンボル施設として定着させ、訪日観光旅行者や全国からの修学旅行生などのレクリエーションや教育観光誘致を図る。

施策 24

動物園に関する様々な情報を、多くの方々に分かりやすく伝えるため、「動物園だより」や「Zoo News」をはじめとする各種印刷物や、テレビ、新聞、SNS、HPなどの広報媒体を有効に活用し、効果的な広報活動を展開する。